

# 平成 30 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : (株)NTTドコモ

研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証  
課題Ⅲ 多様なIoTサービスに活用可能なIoTデータ形式共通化・正規化・抽出技術の確立に関する研究開発

研究開発期間 : 平成 28 ～ 30 年度

代表研究責任者 : 石川 太郎

■ 総合評価 : 適

(評価点 15 点 / 25 点中)

## (総論)

具体的なユースケースに基づいて着実に研究開発を進めていることは評価できるが、NTTドコモとして、本技術を実サービス化するための必要機能とするのか、一部公開の上、サードパーティを巻き込む戦略とするのか、市場に展開されているIoTプラットフォームとの連携も考慮しつつ、具体的な検討を期待する。

また、成果となるAPIの公開を含む開発成果の公開について、どのように開示するか明確にすべき。

## (コメント)

- 具体的なユースケースに基づいて着実に研究開発を進めていることは高く評価できる。
- ユースケースの実サービス化とは別に、今回開発している共通基盤のドコモとしての位置づけを明確にできると良い。ユースケースを実サービス化するにあたっての単なる必要機能と位置づけるのか、一部を公開するなどして多くのサードパーティを巻き込む戦略とするのか等、特に後者の場合は世の中にあまたあるIoTプラットフォームとの連携などに関する考慮も必要になると思われる。これらについての検討も期待したい。
- 着実に実施しているようにも見えるが、ドコモの自社開発でも可能のようにも見える。成果のAPIをどこまでオープンにするのか、明確にして欲しい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム  
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

解釈効果によるデータ削減効果は大きいものの、正規化効果によるデータ削減効果については再検討が必要と思われる。また、IoTサービスの有用性検証はできているが、共通基盤の有用性の検証には至っておらず、検証・分析の強化が望まれる。

また、共通基盤はAWS(Amazon Web Service)などの既存プラットフォームと比較した上で、公開部分を明確に定期することが必要と思われる。

(コメント)

- 解釈効果によるデータ削減効果は大きいものの、正規化効果によるデータ削減に関してはチューニングの必要がある。
- 課題イ(複数サービス共通機能技術に関する研究開発)に関しては、IoTサービスの有用性は検証できたものの、共通基盤の有用性を検証するに至っていない。
- 実証実験や要素技術の開発は順調に進んでいるが、共通基盤はAWS(Amazon Web Service)など既存のプラットフォームと比較した上で、公開する部分をしっかりと定義することが必要である。
- 特段優れた点は見られないが、達成できる見込みはあると思われる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

特段の問題点はなく、適切な予算執行がなされており、妥当と判断する。

(コメント)

- 特段の問題点は見受けられない。

### (3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価 3

#### (総論)

データ量削減効果について共通基盤を用いた効果を検証すべき。

ハッカソン等を通じた成果公開、普及に向けて、開発したシステムアーキテクチャや開発成果の知見等公開可能なものを明確に示すことで、利用者がどのような形で利用できるかが分かるような開示をすることを望む。

#### (コメント)

- 課題イ(複数サービス共通機能技術に関する研究開発)において、共通基盤を用いたことによるデータ量削減効果をきちんと検証すべき。
- 最終年度のハッカソン等を通じた成果公開、普及に向けて、開発したシステムアーキテクチャをしっかりと示し、利用者がどういう形で使えるかをはっきりと示すべきである。
- 開発成果の知見を技術的に公開できるものはしっかりと示すことが求められる。

### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

#### (総論)

平成 29 年度実績及び平成 30 年度の実施計画に基づいた妥当な予算計画となっている。

#### (コメント)

- 特段問題は認められず、実施及び計画に基づいた妥当な予算計画である。

## (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 3

### (総論)

特段の問題点はなく、適切な実施体制であると判断する。

### (コメント)

- 特段問題は認められない。